

前

第220号 2025年1月31日

発行所 全国化学労働組合総連合

〒105-0021 東京都港区東新橋2-16-1 ルーシスピル402号室 TEL 03 (6452) 8806 FAX 03 (6452) 8807

発行責任者 **瓜生 泰則** 編 集 者 化学総連事務局

info@kagaku-s.com

会長挨拶

"政策活動と単組の活動支援に共通する学びを大切に しなやかで知恵に満ちた一年となりますように"

全国化学労働組合総連合 会長 瓜生 泰則





新年明けましておめで とうございます。皆様え は健やかに新春を迎申し上 げます。日頃より化学総 連の活動にご支援、ご協 力いただき、心より感謝 申し上げます。

昨年の世界情勢は、長

引くウクライナ紛争や中東情勢の悪化など地政学リスクが高まる中、インフレの抑制や貿易の持ち直しにより、底堅い成長を維持しました。国内では、1月の能登半島地震や台風、豪雨など多くの自然災害が発生しました。経済面では、歴史的円安や物価高が続く中、日経平均株価が史上初の4万円台を記録し、日本銀行はマイナス金利の解除に踏み切るなど、金融政策に大きな転換点が訪れました。また、労働組合が取り組む春季労使交渉の賃上げは33年ぶりに5%を超える成果となり、実質賃金のマイナスが続く中で日本経済の成長に繋がる一歩となりました。明るい話題では大谷翔平選手の史上初の50-50達成やワールドシリーズ制覇、パリオリンピックでの日本人選手の活躍が、人々の心を明るく照らしてくれました。

このような様々な社会や生活環境の変化があった1年で したが、皆様のご協力と献身的な努力により、産業別労働 組合組織として着実に成果をあげることができました。特 に化学総連の活動目的の一つである「化学産業の発展のた めの政策活動 |では、化学業界の発展や労働者の雇用・生活 安定に資する政策提言を政策局と各委員会で検討・深掘り し、現場の意見や状況を反映した意見を立案することで化 学総連らしい提言ができました。経済産業省や国会議員へ の陳情では化学工業日報の記事にも取り上げられ、化学総 連のプレゼンスも向上しました。活動目的のもう一つであ る「単組の活動支援」では、事務局・政策局と各委員会が連 携し、各単組・地連の役員など多くの方々へ情報提供や学 びの場を企画してきました。この1年を振り返ると、エネル ギー関連の視察や勉強会、第3回安全アンケートのフィー ドバックと各会社の安全責任者を招いた勉強会、第2回幸 福度診断の実施など、各単組の学びや気づきに繋がる様々 な企画を実施しています。特に地連活動では、地連代表者 のご尽力により、幹事会や交流会、近隣地連とのブロック 交流会が発展し、多くの方が人的交流を通じて繋がりを持 てた1年でした。また昨年12月には、化学総連幹事会(構成 組織代表者会議)を台湾で開催し、現地調査と視察を兼ね ました。成長が見込まれるAI・半導体分野で成長した台湾

のサイエンスパークの規模の大きさ、特にTSMC社工場の 規模や数に圧倒されました。10年前に同じサイエンスパー クを見学した際はパネル部材メーカーが多くありましたが、 現在はほぼ半導体中心に形成されていることに驚きました。 このようにグローバルな視野を持つことの大切さを感じ、 視察を各単組委員長と行うことの重要性も実感しました。

化学総連が活動の目標としている政策活動と単組の活動 支援に共通するのは「学び」です。政策活動も調査活動に基 づき学び、政策提言へと繋げていきます。単組の活動支援 も化学総連からの情報提供や情報交換の場から学びに繋が ります。学ぶことで自己成長となり、ひいては単組・組織 の成長にも繋がります。ぜひ学ぶことの大切さを活動の原 動力にしていただきたいです。特に化学総連からの情報提 供や情報交換の場で、ただ受け身で得るだけでなく、各人 が学び得たものを情報交換の場で議論するなど、さらなる 活性化に繋がる取り組みを期待します。

迎える2025年は、国内景気は回復基調を保つとの見方が 続く一方で、トランプ氏の米大統領就任後の経済・外交政 策の変化や金利政策の影響、中東やウクライナ情勢の行方 など海外経済の不透明さがリスクとして挙げられます。国 内の課題として、団塊の世代全員が75歳以上となり、超高 齢化社会を迎えることで生じる社会保障費の負担増や人 手不足の深刻化など、2025年問題は社会や企業に様々な 影響を及ぼすことが考えられます。化学産業も昨年末に 「GX2040ビジョン」と「エネルギー基本計画」の案が出され、 パブリックコメントを経て年度内に閣議決定がなされる予 定です。再エネの導入拡大、カーボンプライシング施策の 具体化、サーキュラーエコノミーの実現に向けた取り組み が加速することになりますので、産業に大きく関わること から化学総連も注視していく必要があります。化学総連内 では、組織体制の課題、産別組織のあり方や立ち位置など 時代と共に変化することに今後は丁寧に取り組まなければ なりません。

最後に、今年の干支は「ご色」です。「ご」は困難があっても紆余曲折を経ながら進むことや、しなやかに伸びる草木を表し、「色」蛇は脱皮を繰り返し強く成長する動物です。「ご色」は、努力を重ねて変化を繰り返しながら柔軟に発展していく縁起の良い年とされています。私自身、昨年は自己管理を徹底しダイエットとスタイル改善に成功し、今年も継続していくことから、会長としてしなやかに、確固たる目標に向かって努力していく所存です。2025年も皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。新しい年が皆様にとって素晴らしい1年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。

化学総連活動報告

【第10回対馬海岸清掃ボランティア】



清掃後の集合写真

2019年6月に訪問してから10回目となる 対馬海岸清掃ボランティアを実施しまし た。今回も一般社団法人対馬CAPPA の協力を得て状況確認と清掃活動を行い ました。清掃前に上野代表理事らによる、 海洋プラスチックの現状について説明を いただいた後、清掃活動を実施しました。 対馬の海洋プラスチック問題は、潮流に よって大陸より漂着するプラスチックご みが美しい海岸線に堆積し、生態系への

影響を及ぼしています。地元の海洋生物にとっても深刻な問題であり、特に海鳥や魚類がプラスチックごみによって健康を害し、命を落とす事例が増加しています。

特にプラスチック製品は自然環境にさらされ、発泡スチロールやペットボトル、ビニール袋などのもともと大きかったプラスチックごみが、海に漂流・漂着し、時間の経過とともに紫外線や雨風によって粉々に小さくなります。海の中をプラスチック粒が漂っているので回収は極めて困難なうえに、分解されないため、海洋中にどんどん増える一方で回収も困難となってしまい、問題となっています。

今回の海岸清掃では、廃プラスチックやペットボトルを中心に回収を行いました。対馬海岸清掃ボランティアを行う団体が年々増えており、海岸清掃の頻度が上がっていることもあって以前よりもごみが少なく感じられました。参加者は短い時間ではありましたが熱心に清掃活動に取り組んでいました。



上野代表理事による説明



海岸清掃前の説明



情掃前の海岸の様子



協力してごみを拾う参加者



瓜生会長も参加されました



短時間ながらかなりのごみを 集めていただきました!

日 時 2024年11月7日(木)~8日(金) **場 所** 対馬市上槻海岸周辺(長崎県)

参加人数 24名

【2025年度 第1回書記長・事務局長会議】

施設見学として加盟単組の信越化学工業(株)群馬事業所を訪問し、西地区のガスタービン施設見学や電材研の展示室、松井田工場東地区のモノマー計器室、さらには横野平分工場の化学および半導体関連施設をバス内より見学しました。最初に群馬事業所に関する事業所概要について同社ご担当者から組合事務所でご説明をいただき、化学総連の前会長代理である峯岸氏にもお越しいただき会社近況について伺いました。同じ加盟単組とはいえ、競合各社が参加する工場見学でしたが懇切丁寧にご説明いただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

会議では、毎年実施しているテーマアップアンケートで化学総連からの情報発信 テーマとして上位となっていたジョブ型



信越化学工業(株)群馬事業所での集合写真

日 時 2024年11月11日(月)~12日(火)

場 所 ホテルメトロポリタン高崎(群馬県)

施設見学 信越化学工業(株)群馬事業所

参加人数 20名

雇用制度について「生産性向上に効くジョブ型人事制度」と題し、PwC合同会社ディレクターである加藤守和氏に基調講演いただきました。海外のジョブ型雇用制度は、必ずしも日本に合致する制度ではなく、日本版へのアレンジが必要であるとご説明いただきました。各単組の書記長・事務局長からは様々な質問が飛び交っておりました。今後、各単組において本テーマが労使で協議される際の参考となれば幸いです。



開会挨拶する松岡会長代理



講演する加藤講師



質問する山下書記長 (三井化学労働組合)



事業所概要説明の様子



真剣に説明を聞く参加者



講演を聴く参加者

【第18回安全担当者会議】



2日目会議の様子

第18回安全担当者会議は広島で開催し、初日は11月13日~15日の期間で開催された全国産業安全衛生大会の各分科会へ参加しました。参加者はグループに分かれて「ゼロ災運動」、「安全衛生教育」、「DX等」、「メンタルヘルス・健康づくり・健康経営」の各分科会を聴講し、環境安全委員会の各委員が他分科会へ参加しました。全国の企業・事業場の経営者や安全衛生に携わる方々の知恵の貸し借りを行う貴重な情報交流の場として、様々な取り組み事例が広く紹介されており安全衛生水準の向上に取り組まれている内容について学びました。



説明する河村委員長



説明を真剣に聞く参加者



事例紹介の様子①

2日目には環境安全委員会の森吉委員のご挨拶の後、河村委員長より安全担当者の役割や委員会からの共有事項について説明いただきました。その後、前日の各分科会に参加したメンバーでグループディスカッションを行い、資料にまとめたうえで事例紹介発表を行いました。参加者は自分自身が参加できなかった分科会の事例紹介に耳を傾けていました。建設業や第三次産業などの異業種を含め、様々な業種における安全衛生活動の成果や改善事例が共有されていました。今回の会議内容を加盟各単組で共有され、労働環境の改善と労働者の安全・健康の確保に繋がれば幸いです。



事例紹介の様子②



事例紹介の様子③



事例紹介の様子④

日 時 2024年11月14日(木)~15日(金)

場 所 TKPガーデンシティ広島駅前(広島県)

イベント 全国産業安全衛生大会 分科会 参加人数 23名

【第108回調査担当者会議】

初日は施設見学として加盟単組の(株) カネカ高砂工業所を訪問し工場見学しまし た。最初に(株)カネカ高砂工業所および同 社が製造する生分解性プラスチックGreen Planet工場(以降GP工場)の概要説明を受 けた後、高砂工業所内を見学しました。工 場内は立ち入りが難しかったためバスの中 からの構内見学となりましたが、事前に同 社総務課やGP工場の川勝部長より概要説 明を受け質疑応答に回答いただいたことに よって、参加者もバス内での説明に対して も非常によく理解できている様子でした。

工業所見学後は所内の会議室をお借りし て第108回調査担当者会議を開催しました。 2024秋季労使交渉に関する情報交換および ディスカッションや春季・秋季労使交渉調 査ページの修正について議論しました。各 社の交渉内容や取り組みについて闊達な質 疑応答が行われました。

2日目には兵庫県加東市にあるパナソ ニックエコテクノロジーセンター(株)を工 場見学しました。同社は日本有数の家電リ サイクル施設で、エアコンやテレビ、冷蔵 庫、洗濯機(ドラム式含む)をリサイクルし ており、使用済みの家電製品から取り出し た部品や素材を、新しい製品の原材料とし て再利用することで循環型社会の実現に貢 献されています。資源の回収率を高めるた めの独自システムを開発されており、参加 者は非常に興味深く見学していました。

B 時

2024年11月18日(月)~19日(火)

場 所 (株)カネカ 高砂工業所(兵庫県)

施設見学

(株)カネカ 高砂工業所、パナソニ

ック エコテクノロジーセンター(株)

参加人数 20名



(株)カネカ高砂工業所での集合写真



代表挨拶する落合工業所長



GPについて説明する川勝部長



調杏担当者会議の様子



説明を真剣に聞く参加者



エコテクノロジーセンター 工場見学の様子



エコテクノロジーセンタ 工場見学での集合写真

【2025年度 第1回全国地連代表者会議】

今年度の第1回目となる全国地連代表者会議を加盟単組である(株)レゾナック大分コンビナートの見学や一昨年度の労使懇談会で訪問したレゾナックドームの見学を含め開催しました。最初に(株)レゾナックの佐藤睦夫市議にご挨拶いただいた後、大分コンビナート概要について説明を受けました。その後、コンビナート内はバス車窓より見学しました。工場の北側に位置するナフサ専用シーバースで途中下車して、シーバースの上にて施設概



大分コンビナートでの集合写真

要について説明いただきました。敷地面積約170万㎡という広大な土地に、様々な企業が参加して構成されており、シーバースから見える大分コンビナートの景色にこれまで積み上げてこられた歴史を感じました。

大分コンビナート見学後に、レゾナックドームへ移動し施設内を見学しました。競技トラックや選手ロッカールーム、普段は立ち入ることができない貴賓室等を見学させていただきました。また、メモリアルギャラリーでは2019年に開催されたラグビーワールドカップの写真や選手の縁の品などが展示されており、参加者はお互いに当時の思い出を語り合いながら、初めて会う仲間含め懇親を深められていました。

会議では、前半に地連活動強化委員会の山本委員長のご挨拶後、伊澤副委員長より活動方針や 地域貢献活動に関する説明、森事務局長より共有事項説明を行いました。後半は、昨年度の各地 連における取り組み事例の紹介や各グループに分かれて分科会を実施しました。昨年度の地連活 動の情報共有や地域貢献活動の具体的計画等について活発な議論が行われました。地連代表者 からいただいたご意見は地連活動強化委員会で取り纏めたうえで今後の活動方針に取り入れてい きたいと考えています。



挨拶する佐藤市議



概要説明を受ける参加者



レゾナックドーム見学の様子



挨拶する山本委員長



伊澤副委員長による説明の様子



分科会の様子

日 時 2024年11月20日(水)~21日(木) **場 所** 亀の井ホテル会議室(大分県)

施設見学 (株)レゾナック大分コンビナート、レゾナックドーム 参加人数 33名

【第55回労使懇談会】

第55回労使懇談会を三井化学(株)大牟田工場に て開催しました。今年度も加盟単組の会社人事部 長クラスの方々や外部団体より日本化学工業会、 石油化学工業会の方々にお集まりいただきました。

最初に熊本県荒尾市に位置する万田坑資料館および施設見学を行いました。三池炭鉱の一部で、1899年に第一竪坑櫓、1908年に第二竪坑櫓が完成し1902年から出炭を開始、日本の産業革命と近代化に大きく貢献した設備です。現在は国の重要文化財および史跡に指定され、2015年7月に「明治日本の産業革命遺産」の一部としてユネスコ世界文化遺産に登録されています。

万田坑見学後に三井化学(株)大牟田工場へ移動し工場見学を実施しました。最初に同社の大牟田工場長である鶴田氏に代表挨拶をいただいた後、化学総連の取り組みに関して化学総連瓜生会長より説明しました。また、大牟田工場管理部長である吉田氏に大牟田工場概要説明および安全に関する取り組みについてご説明いただきました。大牟田工場は敷地面積252万m²という広大な土地で、主に光学プラスチックレンズ原料や地球環境にやさしい農薬、広範な応用可能性を秘めたウレタンなどを製造されています。日が落ちて少し暗い中での工場見学となりましたが、バスの中で映像を交えながらご説明いただきましたので非常にわかりやすかったのが印象的でした。

三井化学(株)担当者から各施設のプロセスなどを含め丁寧にご説明いただきました。この場を借りまして、会社との準備を進めていただいた三井化学労働組合大牟田支部の皆さまにも厚く御礼申し上げます。各会社の人事部長クラスの方々と各単組委員長が一斉に集まるイベントは化学総連の特徴あるイベントの1つで、労使において密な懇談ができる場となっており今後も継続していきたいと考えております。

日 時 2024年11月27日(水)~28日(木)

場 所 三井化学(株)大牟田工場(福岡県)

施設見学 三井化学(株)大牟田工場、 万田坑資料館&施設

参加人数 42名



大牟田工場での集合写真



施設の説明を受ける参加者



取り組みについて説明する 瓜牛会長



代表挨拶する鶴田工場長 (三井化学株式会社)



工場概要説明する吉田管理部長 (三井化学株式会社)



万田坑資料館見学の様子



会場の様子

【第50回支部役員研修会(東日本)】

昨年に引き続き、支部役員研修会は東日本と西 日本でそれぞれ現地にて開催することになり、第 50回支部役員研修会(東日本)は東京都のAP新橋で 開催しました。

日 時 2024年12月6日(金)

場 所 AP新橋 Room:K(東京都)

参加人数 42名



講演する下田政策局長

基調講演として化学総連の下田政策局長より「化学総連活動概要」と「化学産業の現状や動向」と題して講演いただきました。参加者の皆さんに化学総連に対する理解を深めていただくと同時に、製造業における化学産業の立ち位置や化学産業のトピックスとして主に石油化学事業と半導体事業、化学物質規制に関する事項などを説明いただきました。

また、研修会では「対人安心力

向上セミナー~相談してもらえる「安心感」を提供するために~」 と題して日本メンタルヘルス協会の藤野先生をお招きしてセミナーを実施しました。相談時に安心してもらうための傾聴の仕方で、うなずきながら集中して相手の話を聞く際、「間違い」に対しては「間」を抜き「違い」と捉え、自分と違う考え方のプロセスを教えてもらおうと考えることが大切という説明がとても印象的でした。



説明する藤野先生

最初は初めて顔を合わせる参加者が多く緊張した面持ちでしたが、セミナーでは隣や前後の席 同士で話し合う回数が非常に多かったため、研修が進むにつれて藤野先生につられてにこやかな 表情となっていました。

本研修内容が組合活動だけでなく各社業務やご家庭などでもご活用いただければ幸いです。



会場の様子



講演を聴く参加者



常時にこやかな藤野先生



セミナーの様子①



セミナーの様子②



セミナーの様子③

【第51回支部役員研修会(西日本)】

前週に引き続き、第51回支部役員研修会(西日本)は大阪府のリファレンス大阪駅前第4ビル貸会議室で開催しました。

基調講演として、第50回支部役員研修会と同様に、化学総連の下田政策局長より「化学総連活動概要」と「化学産業の現状や動向」と題して講演いただきました。第50回支部役員研修会も同様ですが、参加者の約3分の1が組合支部執行役員としてスタートされた方々でしたので、化学総連の活動について興味深く聞いておられるのが印象的でした。



講演する下田政策局長



説明する結城先生

下田政策局長の講演後に「人が輝く職場づくり~チームビルディング篇~」と題して、以前に幹部研修会でも講演いただいた(株)ビスタワークス研究所の結城先生をお招きしてセミナーを実施しました。自分自身がすべての能力を高めていくことは難しいため、自分が欠点と感じている能力は仲間とお互いに補い合い、それぞれの長所を磨くことが大事であることを説明いただきました。また、対話力とは「聴く力×話す力」で表され、会社に属していると話す力に重点を置きがちだが、素直に質問することや相手に配慮しなが

ら聴く力を高めることが重要であることを説明いただき、第50回支部役員研修会の藤野先生に 講演いただいた内容と重なる部分もあり大事な点であると感じました。対話は真剣かつリラック スして学び合うことが大事であることを結城先生からレクチャーいただいたこともあって、各班 のメンバーが忌憚のない意見を出しているのが印象的でした。

今年度は改選があった加盟単組も多く、新しい役員でスタートされた単組が多いこともあり、 今回のチームビルディングが組合活動において中核を成す参加者のお役に立てば幸いです。



対話の様子(1班)



対話の様子(2班)



対話の様子(3班)



対話の様子(4班)



対話の様子 (5班)



対話の様子(6班)



対話の様子(7班)

日 時 2024年12月13日(金)

場 所 リファレンス大阪駅前第4ビル貸会議室

2301会議室(大阪府)

参加人数 37名

◆年末社会福祉力》パポスタ=受賞者発表

化学総連は昭和53年より全国組織を活かした大きな枠組みでのカンパ活動を展開しており、年末社会福祉カンパポスターを毎年募集し最優秀作品を加盟単組へ配布のうえカンパ活動を実施しております。

今年は14単組より32作品を応募いただき、加盟全単組で審査した結果、最優秀賞にUBE労働組合宇部支部の 木下実花さんの作品が選ばれました。たくさんのご応募をいただきありがとうございました!



	労組名	支部名	名前(敬称略)
最優秀賞	UBE労働組合	宇部支部	木下 実花
			織本雅久
			宮本 真帆
優秀賞	日本ゼオン労働組合	中研支部	鈴木 聖香
			榎本 拓巳
			松本 真緒
優秀賞	カネカ労働組合	滋賀支部	三浦 明莉
優秀賞	三井化学労働組合	名古屋支部	濱田 拓実
優秀賞	日本板硝子労働組合	舞鶴支部	村山 尚
優秀賞	信越化学労働組合	直江津支部	小林 和洸

+1++++++

		労組名	支部名	名前(敬称略)
佳	作	AGC労働組合	千葉支部	後藤 拓人
佳	作	ENEOSマテリアル労働組合	千葉支部	増田 重則
佳	作	デンカ労働組合	五泉支部	山下 佳代
佳	作	JNC労働組合	水俣支部	蔭山 三稀
佳	作	日本板硝子労働組合	京都支部	若林 巧馬
佳	作	ダイセル労働組合	大竹支部	平川 大希
佳	作	日本ゼオン労働組合	氷見二上支部	與田 明花里
佳	作	信越化学労働組合	鹿島支部	吉井 学
佳	作	JNC労働組合	水俣支部	藤吉 樹

最優秀作品に選ばれた UBE労働組合 木下 実花さんからのコメント

「入社以来、毎年応募しており、念願だった最優秀賞が受賞出来で大変うれしいです。 作成時間は十数時間で、時間があるときに少しずつ描きました。構想は、この絵を見た 人が主役となり、一人ひとりの手で綺麗な花を添えることによって、愛のあふれる世界 を築いてほしいという願いを込めました。ここに描いた花の花言葉は全てポジティブな 物にしたところもポイントです。」



UBE労働組合 木下 実花さん